

2位「善を信じるためには」

マラトワ・アイビィケー

ビシケク国立大学東洋国際関係学部 3年



私はいつも人々を助け、積極的になり、自分が出来ることをすべてやりたいと思っていました。だからボランティア活動に参加することにしました。私が始めたのは、赤十字キルギス赤新月社の活動です。世界的な組織であり、様々な支援を行っています。孤児院の子供達、ホームレス、高齢者、そして必要としているすべての人を支援しています。

私はボランティアになった最初の日を覚えています。その日、私は一番幸せな気分になりました。感動と元気に満ち溢れていて、実際に喜びに満ち溢れていました。世界を変えられると思っていました。

他のボランティアの人たちからも刺激を受けました。一緒に時間を過ごしたり、新しいものを発明したり、知識を共有したりすることがとても面白かったです。一番嬉しかったのは、隣の人々の目が輝いている、善を信じている、世界を良く変えたい人がいることでした。

ボランティアを励ます必要はありません。実際にはボランティアはたくさん励ましてもらっています。ボランティアをしていると、人に喜びや温かさを与えることができることを実感します。私達は人々を助けることができます。少しでも、生活を楽にすることができます。休日には、プログラムをたくさん実施して、孤児院にも行っています。多くの場合、子供達が必要とするのは人間の温もりだけです。子供はただ話したい、ニュースを伝えたい、ゲームがしたいだけです。孤児院の子供達と一緒に時間を過ごすことが一番好きです。

ボランティアには人を助けるさまざまな方法があります。例えば、パンデミックになって、キルギスで人々はボランティアの反応の良さ、団結して助け合えることの多さに驚きました。このような国にとって大変な時期に、多くの人が寛大さ、優しさ、勇気を見せてくれました。危険であるにもかかわらず、自分のことだけでなく、生死の瀬戸際にいる他の人々のことも考えていました。医学的な知識もなく、ただ助けあいたいという思いだけで医師を手伝おうとする人がたくさん出てきました。ボランティアはあらゆる方法で手助けをしました。薬を探すのを手伝ったり、人の電話相談に乗ったりするネット・ボランティアもいました。心から働くすべてのボランティアの皆さんは真のヒーローです。これは大きな尊敬に値します。

「私にできることなんてなさそう」とか「手伝うのはむずかしそうだから」とか「私はただの学生だから」とか「助けるお金なんてないんだ」と思っている人がいます。その人達に私は「誰でもできますよ」と言いたいです。笑顔と会話だけで助けることができます。とにかく始めてください。毎日そのような小さな善行のおかげで世界を変えることができます。そして、そのような人達がたくさんになると、本当に素晴らしいことが起こるかもしれません。一人ひとりが世界をより良くすることができることを忘れないでください。小さな一歩を踏み出すことだけでいいです。大海の一滴ですね。